

令和3年度 活動報告レポート「スタートアップ部門」

団体名

梅が丘三世代を繋ぐ会

団体概要

地域の活動が世代を超えた顔が見えるまちづくりの必要性を感じ、三世代を繋いで顔が見えるまちづくりを目的とする。

- 町内会や老人会と繋がり、町の子どもたちのための育成プログラムを実施する。
- 防災イベントを通して、子どもたちと高齢者とのふれあいを深める。
- 駄菓子屋を企画・実施。

活動名：地域の提携協力による防災力の強化と助け合いの環境作り

1 活動の目的

コロナ禍で助成3年目を迎え、子供達の学校生活も地域活動もすべてが中断する中で既存の組織に属さない有志の集まりだからこそ出来る事を模索し、人の繋がりを絶やさず紡ぎ未来にバトンを繋ぐ。

2 活動の内容

助成3年目の集大成として、「自分たちのまちは、自分たちで灯す」をテーマに、お盆の8月15日の送り火とも言える『七夕竹あかりの夕べ』を企画・実施しました。“子供たちのために”を合言葉として、町のお年寄りから、普段は地域と関わる事の少ない若い父親、大学生や高校生そして中学生も加わり、たった1日のともしびのために何日もかけて作業をして、子供たちの作った竹あかりと共にいつもの公園を光で埋め尽くしました。また、町の中で日常的に繋がりのないお住まいを訪ね、短冊や折り紙を配り、少しずつ関わって作ってくれた七夕飾りと想いのこもったたくさんの短冊が、みんなの気持ちを一つに集める大きな力となりました。月1回の駄菓子屋もコロナ対応をしつつ3年間継続して、子育てがひと段落したお母さんから関わりの申し出も生まれています。



3

活動の振り返り

急激なコロナ感染拡大での蔓延防止措置の発動や、イベント1週間前からの爆弾低気圧による悪天候の隙間を縫うようにして準備を進め、1日延期でも雨のなか決行しようと覚悟を決めました。そんな思いで迎えた当日は、午前中の土砂降りからたくさんの人の想いが天に通じたように、イベント終了するまでのわずかな時間青空と星空に恵まれ、小児科ドクターの助言による感染対策を取りつつ、大勢の町の人々が光の灯った公園の幻想的な空間を楽しむことができました。翌日以降には「神風が吹いた」「神さまいるね」「いいお盆になりました」「子供にお祭りを味合わせることができました」「奇跡は本当にありますね」etc...自分たちの想像を遥かに超える心のこもった言葉をいただく事ができたのは、すべての労力が報われた瞬間でした。



4

今後の展開

竹あかりが地域のタウン誌に取り上げられたことで、同じ地域で活動している子育て支援拠点の代表やまちづくりに興味のある在宅医療の開業医からコンタクトがあり、いずれ協働しましょうという事になりました。竹あかりのご縁で三重県名張市の赤目まちづくり委員会の竹あかりのブログを書いた事から、こちら県を跨いだコラボを温めています。また、6月には三重県津市で開催される日本小児保健協会の学術集会で、これまでの活動を口頭発表することになりました。少しずつ町の中にできた繋がりを生かして、春から子供と女性目線の防災講座を開催する予定です。

